No. 172

長文読解 ULTIMATE CHEAT SHEET

長文読解テクニック集50

設問処理・選択肢の切り方・時間短縮・未知語・形式別の実戦テク50。どれも「なぜ効くか」が言えるものだけを厳選。

Web版はこちら

ここだけ3行

1 設問を先に見て「探す物」を決めてから読む
2 選択肢は本文の言い換えを探し、言い過ぎを切る
3 分からない所は飛ばす勇気。点になる所に時間を使う

◆ 読む前・設問処理のテク 8

☐ 1 設問文だけ先に読む

選択肢までは読まず、設問文から「何を探すか」を決める。目的を持って読むと、関係する箇所で自然に目が止まる。

> Why did the author move to Kyoto?
> →「京都へ移った理由」を探しながら読む

☐ 2 設問のキーワードに丸

固有名詞・数字・年号・カタカナ語になりそうな語は本文で見つけやすい目印。スキャニング(拾い読み)の的になる。

☐ 3 設問の数から段落を割り振る

設問の順は本文の順に沿うことが多い。設問5問・段落6つなら、およそ1〜2段落に1問と見当をつけて読む。

☐ 4 最終設問を先に確認

最後の問いがタイトル・主旨・内容一致なら、全体を読む前提で各段落の要点をメモしながら進める。

☐ 5 注(＊)は先に見る

本文末の語注は、本文のテーマのネタバレ。難語と話題の両方が分かる。

☐ 6 英問英答は疑問詞で答えの形を決める

Why → because / to do、How(方法)→ by doing、What … for → 目的が典型。答えの形が分かれば本文の該当箇所も予想できる。※with＋名詞など別の形もある。

> How did she solve the problem?
> → By ～ing の形の答えを探す

☐ 7 NOT問題は印をつける

Which is NOT true? / EXCEPT は読み違えると全部逆になる。設問の NOT に大きく×をつけ、本文と一致する選択肢を消していく。

☐ 8 図表は軸と単位から

グラフはタイトル・縦軸・横軸・単位(%か人数か)を先に確認。数字の比較問題は単位のずれが典型的なひっかけ。

◆ 選択肢の切り方テク 10

正解を探すより、×の理由を言える選択肢を消すほうが速く確実。

☐ 1 言い過ぎを切る

always / all / never / only / completely / the most は本文の強さと照合。本文が often / some / may なら×。

> 本文 Some students… ／ 選択肢 All students…
> → 範囲が広がった言い過ぎ

☐ 2 主語のすり替えを切る

述語は本文どおりでも、誰がしたかが入れ替わっている。人物が2人以上出る文章で頻出。

> 本文 Tom praised Ken. ／ 選択肢 Ken praised Tom.
> → ほめた人とほめられた人が逆

☐ 3 因果の逆転を切る

本文「AだからB」→選択肢「BだからA」。because / lead to / result from の向きを確認。

> 本文 Exercise improves sleep. ／ 選択肢 Good sleep makes people exercise.
> → 運動→睡眠 の矢印が逆向き

☐ 4 比較のすり替えを切る

比較の対象・向き(more / less)・程度が入れ替わる。than の後を本文と照らす。

> 本文 Bikes are cheaper than cars. ／ 選択肢 Cars are cheaper than bikes.
> → 比較の向きが逆

☐ 5 本文にない常識を切る

一般的には正しくても、本文に書いていなければ×。「正しそう」は根拠にならない。

☐ 6 時制のずれを切る

本文は過去の話(used to＝今は違う)なのに選択肢は今もそうだと言う、本文は予測(will / may)なのに選択肢は事実として断定、は×。

> 本文 The town may become a tourist spot. ／ 選択肢 The town has become a tourist spot.
> → 予測(may)を事実にすり替え

☐ 7 半分だけ正しいを切る

前半は本文どおり、後半がずれている選択肢。and や because の後ろまで最後に読む。

> 選択肢 She moved to Paris **because she wanted to study art**.
> → 移住は本文どおりでも理由が本文にない

☐ 8 字面一致を疑う

本文の語をそのまま並べた選択肢は、中身がすり替わっていることが多い。正解はたいてい言い換え。

☐ 9 正解は言い換えを探す

品詞の転換(decide → decision)、反意語の否定(not difficult ≒ easy)、具体→抽象(cats and dogs → pets)を見抜く。※否定形は反意語より少し弱いこともある。

> 本文 The shop does not open on Sundays. ／ 正解 The shop is closed on Sundays.
> → 反意語の否定による言い換え

☐ 10 2択で迷ったら主張側

どちらも本文に根拠がある時は、筆者の主張に近いほう、本文全体の流れに沿うほうを選ぶ。

なぜ効く？

なぜ字面一致が罠になる？ 人は文章を受け取ると、少し時間がたつだけで正確な語句は薄れ、意味のほうが記憶に残る(Sachs 1967)。だから「見覚えのある語」が並ぶ選択肢は、意味が違っていても正しそうに感じてしまう。照合は**語ではなく意味**で行う。

◆ 読み方・時間短縮のテク 10

☐ **1 段落の1文目と最終文をつなぐ**
要点は段落の最初か最後に置かれやすい。時間がない大問は、各段落の1文目と最終文だけで全体の骨組みをつかむ(スキミング)。

> ① Sleep affects memory. … ⑤ So sleep is part of learning.
> → 1文目と最終文で段落の要点がつかめる

☐ **2 具体例は速度を上げる**
For example の後は主張の確認。要点が取れたら流し読み。設問で問われたらそこだけ戻る。

☐ **3 逆接で減速する**
However / But / Yet の後は筆者の主張になりやすい。読む速度にメリハリをつけると、全体は速く、要所は正確になる。

☐ **4 数字・固有名詞はスキャン**
「何年に」「何人が」系の設問は、本文を全部読み直さず、数字や大文字だけを目で探す。

☐ **5 段落ごとに設問を解く**
段落を読む→対応する設問を解く→次の段落へ。記憶が新しいうちに解くので根拠を探す時間が減る。

☐ **6 要点を余白に5〜10字でメモ**
「①SNS問題提起 ②例 ③反論 ④結論」。主旨・タイトル問題を、本文を読み直さず解ける。

☐ **7 記号メモで論理を残す**
逆接は ⇔、因果は →、追加は ＋、例は 例)。英文の論理を一目で見られる地図になる。

> ① 昔:手紙 ⇔ 今:SNS → 孤独↑？＋若者の例
> → 段落の論理を1行で再現

☐ **8 大問ごとに終了時刻を書く**
問題用紙に「第3問 10:25まで」と書いておく。時間を「残り」ではなく「時刻」で管理すると、ずるずる延びない。

☐ **9 解く順番を決めておく**
得意な形式・配点の高い大問から。最後に残すのは時間がかかって点になりにくい問題。本番前に模試で順番を固定する。

☐ **10 返り読みは目的があるときだけ**
同じ文を何度も読み直すのは迷子のサイン。読み直すなら「主語は何か」など目的を決めて1回だけ。

◆ 未知語・難文処理のテク 8

☐ **1 未知語は品詞を先に決める**
the ＿＿ of なら名詞、to ＿＿ the なら動詞(前置詞の to なら動名詞)。品詞が分かれば文の骨格は崩れない。

☐ **2 ＋−だけ分かれば進める**
前後に good / problem / unfortunately などがあれば、未知語の良し悪しは推測できる。設問に関係なければ細かい意味は不要。

> The new policy had **detrimental** effects; many shops closed.
> → 店が閉まった＝マイナスの意味(有害な)

☐ **3 直後の言い換えを探す**
or / that is / i.e. / ダッシュ(—)/ カンマの後で、難しい語を易しく言い換えることが多い。

> They studied **flora**, or plant life, on the island.
> 彼らは島の植物相、つまり植物を研究した。

☐ **4 接頭辞・語根でアタリをつける**
un- / dis- / in-(否定。in- は「中へ」の意味も)、re-(再び)、-less(〜がない)、bio(生命)、port(運ぶ)。ただし語源だけで決めつけず文脈で確認。

☐ **5 長い主語は動詞を探す**
主語が長い文は、時制を持つ本物の動詞(助動詞を含む)を探す。その前の名詞のかたまりが主語。※文頭の副詞句・従属節は主語に含めない。

> The students who joined the program last year **were** satisfied.
> 昨年その講座に参加した学生は満足していた。

☐ **6 修飾語をカッコでくくる**
前置詞句は( )、関係詞節・分詞は[ ]。残った S・V・O が文の意味の芯になる。

☐ **7 倒置・強調構文に気づく**
Not only did he… / Never have I… / It is A that… は形を元に戻すと読める。否定語が文頭に来たら倒置を疑う。

> **Never have I** seen such a beautiful sunset.
> → I have never seen… に戻す:こんなに美しい夕日は見たことがない

☐ **8 分からない文は前後で補う**
1文が読めなくても、前後の文や段落の要点から内容は推測できる。設問に関係なければ飛ばして先へ。

なぜ効く？
未知語を飛ばしてよい理由:辞書なしで十分に理解するには本文の語の約98%、ある程度の理解なら約95%を知っていることが目安としてよく引用される(Hu & Nation 2000 など。追試では値に幅がある)。裏返せば、多少の未知語は残るのが前提。全部を知ろうとせず、文脈と設問に必要な語だけに時間を使う。

◆ 問題形式別のテク 10

☐ **1 空所は選択肢より先に予想**
空所の前後の論理(順接か逆接か)と品詞から、入る内容を自分で予想してから選択肢を見る。選択肢に引っぱられない。

☐ **2 接続語の空所は前後の＋−**
前後が同じ向きなら順接・追加、逆の向きなら逆接。具体なら例示、同じ内容なら言い換え。

> The test was hard. ＿＿＿, most students passed.
> → 難しい⇔合格した＝逆向き → However

☐ **3 指示語は当てはめて確認**
候補を指示語の位置に入れて読み、意味が通るか確かめる。単数・複数(it か they か)も手がかり。

☐ **4 下線部は自分の言葉で言い換えてから**
下線部の意味を先に自分で言ってから選択肢を見る。比喩や慣用表現は、直前・直後の文に答えがあることが多い。

☐ **5 タイトルは広すぎ・狭すぎを切る**
本文全体をカバーし、筆者の視点まで含むものが正解。一部の段落だけの話や、本文より大きすぎる話題は×。

☐ **6 内容一致は選択肢を先に分解**
選択肢を「主語・動作・条件」に分け、キーワードで本文の該当箇所を探して1つずつ照合する。

☐ **7 文挿入は前後の指示語・冠詞**
挿入文の this / these / the / also / however が、どの文の後に来られるかを決める。

> 挿入文 **These** changes, however, came at a cost.
> → 直前に「複数の変化」が書かれた文があるはず

☐ **8 段落整序は「つなぎ目」で**

however・also などのつなぎ語、指示語、the＋名詞（既出の物）が順番の手がかり。最初に来る段落は、話題を新しく導入する文で始まる。

> The experiment showed ... ／ An experiment was carried out ...
> → an で導入する文が先、the で受ける文が後

☐ **9 和訳は構造を見せる**

採点者は構造を取れているかを見る。主語・動詞・修飾関係が分かる日本語にし、自然さは最後に整える。

> What surprised me was his calm attitude.
> → 私を驚かせたのは彼の落ち着いた態度だった（what＝～こと・もの）

☐ **10 要約は主題文をつなぐ**

各段落の要点（主題文が手がかり。なければ自分で1文に）を拾い、具体例・数字・引用を削り、つなぎ語で結ぶ。

> ① 問題 → ② 原因 → ③ 解決策
> → 例・数字を削り、つなぎ語で3文にまとめる

なぜ効く？

要約・主旨問題が「主題文をつなぐ」で解ける理由：読み手は文章を理解するとき、細部を削り（削除）、まとめて言い換え（一般化）、要点を組み立てる（構成）ことで、全体の要旨を作るとされる（Kintsch & van Dijk 1978 のマクロルール）。段落の主題文は、その要旨を組み立てる手がかりになる。

◆ 見直し・本番のテク 4

☐ **1 マークは大問ごとに**

最後にまとめて塗ると時間切れで全滅する危険がある。大問を終えるたびに塗る。

☐ **2 見直しは印をつけた問題だけ**

全部を見直す時間はない。解く時に「迷った」印をつけておき、そこだけ見直す。

☐ **3 初めの答えを根拠なく変えない**

見直しで答えを変えるのは、本文に新しい根拠を見つけた時だけ。なんとなくの変更は避ける。

☐ **4 難問を捨てる基準を決める**

「1問に○分以上かけたら次へ」と自分のルールを決めておく。全員が解けない問題で時間を失わない。

◆ 確認テスト

1 本文 Most residents supported the plan. ／ 選択肢 Every resident supported the plan. この選択肢の×の型は？

a 言い過ぎ　b 主語のすり替え　c 因果の逆転　d 時制のずれ

2 The town is known for its **arid** climate; it rarely rains. arid の意味は？

a 湿った　b 乾燥した　c 寒い　d 穏やかな

3 How did he become a doctor?（方法を問う）の答え方として最も典型的なのは？

a Because ～　b To ～　c Yes, he did.　d By ～ing

4 She practiced hard. ＿＿＿, she failed the audition. 空所は？

a Nevertheless　b For instance　c In addition　d Therefore

◆ 解答

1 言い過ぎ most → every で範囲が拡大
2 乾燥した rarely rains が言い換え
3 By ～ing How は手段・方法
4 Nevertheless 努力⇔不合格の逆向き

参考資料 Sachs, J. S. (1967). Recognition memory for syntactic and semantic aspects of connected discourse. Perception & Psychophysics, 2(9)／Hu, M. & Nation, I. S. P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension. Reading in a Foreign Language, 13(1)／Kintsch, W. & van Dijk, T. A. (1978). Toward a model of text comprehension and production. Psychological Review, 85(5)

もっと無料で学ぶなら
原田英語.com
究極の英単語帳（PDF印刷）・共テ単 キョウテタン・共通テスト満点チートシート・英文法大全・英作文超絶採点くん・時事英語ナビ…
受験に役立つ無料の英語アプリと、約2,800本の記事。
原田英語.com
ほかのチートシート（全439本・無料）